

連 不活動法人の問題で理事長談話 制度悪用行為―宗教法人への誤認を憂慮

日本宗教連盟(日宗連)、
突野史理理事長)は5月22
日、「不活動法人の問題」と
と宗教団体の公益性を基に
適正な管理運営の推進につ
いて」と題する理事長談話
を発表した。

談話は、今年に入ってから
宗教法人法と宗教法人管
理の実態をはじめ、不活動
状態の宗教法人を中心に宗
教法人格が充實され、反社
会的勢力等による犯罪の温
床化を指摘する報道が続い
たことから、宗教文化振興
をはじめ、宗教法人の適正
管理の促進に努めてきた日
宗連として看過できない一
つの立場から理事長談話と
して見解を表明したものと
談話では、日宗連に参画

する各宗教法人が憲法20条
で保障する「信教の自由」
と宗教団体の公益性を基に
して、自主自律的な管理運
営に動いてきたことを訴え
、特に制度上、宗教法人
格充實は不可能であるこ
と、仮に充實された事案が
あれば、それは「宗教法人
法の趣旨を逸脱した行為で
あり、不当な手段を用いた
「法人の乗っ取り」による
もの」である可能性を指摘
したことから、宗教文化振興
を旨とする宗教法人の適正
管理の促進に努めてきた日
宗連として看過できない一
つの立場から理事長談話と
して見解を表明したものと
談話では、日宗連に参画



式典では追悼施設内の犠
牲者慰霊復興祈念式典を
執り行った。同総支部の震
災犠牲者慰霊と復興を祈念
する行事は2017(平成
29)年から沿岸各地で行わ
れているもの。陸前高田市
での式典は今回が初めて。

70周年記念事業総括式典の
報告、総支部活動に関する
意見交換などが行われた。
各総支部の会議開催日は
以下の通り(時系列)。
首都圏総支部(本山一博
会長) 3月13日・総会
4月13日・教化活動懇談会

中部総支部(佐々木義章
会長) 3月14日・総務会
北関東総支部(新井光興
会長) 3月25日・総務会
九州総支部(力久道臣会
長) 4月4日・総務会
四国総支部(小坂匡弥会
長) 4月17日・総務会

14式典)は、基本方針と
チラシ案を基に会場参列の
方法について協議。会場の
人数制限や実行委員会の受
け入れ体制の問題もあり、
加盟教団代表者以外の一般
会員信徒の参列に関しては
、各教団に問い合わせ調
整を行うこととした。

【諸会議 報告】
宗教法人運営に関する諸議
について情報意見交換

新宗連 宗教法人研究会(会
長) 4月11日・特別委
員会(信教特別委員、鈴木裕
委員長)は4月11日午後1
時半から、東京・代々木
の新宗連会館とオンライン
により、第32期第4回幹事会
を開催した。

新宗連企画委員会(企画委
田澤清貴委員長)は4月18
日午後2時から、新宗連会館
とオンラインにより、第32期
第5回委員会の開催を
行った。

新宗連政治委員会(政治委
山口一委員長)は5月22
日午後2時から、東京・代々
木の新宗連会館とオンライン
により、第32期第3回会
計委員会の開催を
行った。

新宗連政治委員会(政治委
山口一委員長)は5月22
日午後2時から、東京・代々
木の新宗連会館とオンライン
により、第32期第3回会
計委員会の開催を
行った。

会主と大導師に報恩感謝の誠を 春の大法要 千葉聖地で厳修

妙智會教団(本部〓東京
・代々木、宮本恵司法嗣)
は3月28日午前10時から、
千葉県九十九里町の千葉聖
地大導師で「春の大法要」
を厳修し、宮本ミツ子と
宮本丈晴大導師に報恩感謝
の誠を捧げた。

須弥壇正面には、宮本孝
平大導師と宮本ミツ子会主、
宮本丈晴大導師、宮本愛子
女先生の法號を書した新
たな木牌が安置され、全国
から参集した会員とライア
配信にて参列した会員が、
須弥壇を拝して玄題三唱
し、開式。続いて男女青年
部員による献灯・献華・献
供の儀が厳かに行われた。
導師の宮本恵司法嗣が入

要の前日に亡くなった方
をお迎えする、「お逮夜」
の尊さについて説いた。
会主の命日が3月28日
(1984年)、大導師の
命日が3月26日(2015
年)であることを、「大
導師さまは」慕っていた会
主さまのご逮夜の日を避
け、ご自身の命日を26日

選ばれたのだと思う」
、「自身だけではなく、法要
参拝が増え、会員一同の負
担にならないように」とい
うお心を頂いたと述べた。
そして「春の大法要」とは
千葉聖地に足を運ぶこと
で、二師の素晴らしい心を
受け止める大切な機会であ
るとして、二師の差し伸べ
た手を握り返さなければ結
果は出ないと、そのため
には正しい先祖供養と導き
をする必要があると説き
、「お二方を信じて、自
ら進んで手を握るに行きま

善隣教(力久道臣教主
は5月20日午前10時から、
福岡県筑紫野市の本庁聖堂
で「立教76年記念大祭」を
オンライン配信と併用して
挙行了した。

「救難行写経」と「神心
す祈願の証」、立教の地
の「御神火」「御神瑞」が
献上された後、力久道臣教
主により「御神火」が点火
され、「御神瑞」が妙合さ
れた。

善隣の園頭
現、世界平和
の四つの祈念
行に精進しま
す」と誓った。
力久教主の
呼び掛けによ
り、荘厳な光
が放たれる
中、「御神尊
様の「御神
像御開眼」が
行われると、
信徒から「や
ります」「や
ります」「や
ります」の唱
和が場内に響
きわたった。

「みねや賛歌」を本唱し、
「信条五ヶ条」「善隣教信
仰標語」を唱え、救難行
者が玉串拝礼を行った。
来賓あいさつ、祝電披露
の後、保積齋主があいさつ

祈りの尊さ、感謝の
稽古の実践を訴える
大國神社例大祭 大和教団

大和教団(保積秀胤教主
は4月29日午前10時から、
宮城県仙台市の大國神社で
「大國神社例大祭」を肅行
した。

祈りの尊さについて語り、
「祈りのない宗教はない。
祈りは宇宙の実相を感じ
て自分のいのちを輝かし、
世に顕していくこと」と説
いた。また感謝について
、「皆さんも共に
日頃から「感謝の稽古」を
自らに課していることを語
り、「皆さんも共に
感謝の稽古を実践してくだ
さい。皆さんが実践してく
れるまで私は
訴え続けま
す」と力強く
呼び掛けた。

保積齋主は「感謝の稽古」を力強く呼び掛ける
しんだ。

妙道会教団(本部〓大阪
市天王寺区、佐原慶治会長
は5月5日、滋賀県大津市
の聖地で「両聖師大祭」を
厳修した。

大祭は1951(昭和26)
年2月4日、立教した「聖
師さま」(佐原忠次郎師)
と「曹師さま」(佐原俊江
師)を讃嘆仰する式典。
参列制限のない両聖師大祭
は2019(令和元)年以
来、4年ぶり。大勢の会員
が全国から参列し、今年も

式典の様子がライブ配信さ
れた。
午前10時半に開式。宝塔
奉安殿で、献花・献灯の後、
御旗、佐原慶治会長に統一
導師が入場した。佐原会
長が塔中より、祭文を奏上
して、両聖師の恩徳に報謝
の誠を捧げ、読経を行った。
御眞諦拝受の儀では、讃
嘆文が読み上げられる中、
佐原会長が塔中より御眞諦
を奉持し、浮御台へ降壇。
御眞諦を拝し、玄題を三唱
した。

信 徒 実践スローガンに徹する 立教76年記念大祭 善隣教

「おみねや賛歌」を本唱し、
「信条五ヶ条」「善隣教信
仰標語」を唱え、救難行
者が玉串拝礼を行った。
来賓あいさつ、祝電披露
の後、保積齋主があいさつ

祈りの尊さについて語り、
「祈りのない宗教はない。
祈りは宇宙の実相を感じ
て自分のいのちを輝かし、
世に顕していくこと」と説
いた。また感謝について
、「皆さんも共に
日頃から「感謝の稽古」を
自らに課していることを語
り、「皆さんも共に
感謝の稽古を実践してくだ
さい。皆さんが実践してく
れるまで私は
訴え続けま
す」と力強く
呼び掛けた。

保積齋主は「感謝の稽古」を力強く呼び掛ける
しんだ。

妙道会教団(本部〓大阪
市天王寺区、佐原慶治会長
は5月5日、滋賀県大津市
の聖地で「両聖師大祭」を
厳修した。

大祭は1951(昭和26)
年2月4日、立教した「聖
師さま」(佐原忠次郎師)
と「曹師さま」(佐原俊江
師)を讃嘆仰する式典。
参列制限のない両聖師大祭
は2019(令和元)年以
来、4年ぶり。大勢の会員
が全国から参列し、今年も

式典の様子がライブ配信さ
れた。
午前10時半に開式。宝塔
奉安殿で、献花・献灯の後、
御旗、佐原慶治会長に統一
導師が入場した。佐原会
長が塔中より、祭文を奏上
して、両聖師の恩徳に報謝
の誠を捧げ、読経を行った。
御眞諦拝受の儀では、讃
嘆文が読み上げられる中、
佐原会長が塔中より御眞諦
を奉持し、浮御台へ降壇。
御眞諦を拝し、玄題を三唱
した。

信 徒 実践スローガンに徹する 立教76年記念大祭 善隣教

「おみねや賛歌」を本唱し、
「信条五ヶ条」「善隣教信
仰標語」を唱え、救難行
者が玉串拝礼を行った。
来賓あいさつ、祝電披露
の後、保積齋主があいさつ

祈りの尊さについて語り、
「祈りのない宗教はない。
祈りは宇宙の実相を感じ
て自分のいのちを輝かし、
世に顕していくこと」と説
いた。また感謝について
、「皆さんも共に
日頃から「感謝の稽古」を
自らに課していることを語
り、「皆さんも共に
感謝の稽古を実践してくだ
さい。皆さんが実践してく
れるまで私は
訴え続けま
す」と力強く
呼び掛けた。

保積齋主は「感謝の稽古」を力強く呼び掛ける
しんだ。

妙道会教団(本部〓大阪
市天王寺区、佐原慶治会長
は5月5日、滋賀県大津市
の聖地で「両聖師大祭」を
厳修した。

大祭は1951(昭和26)
年2月4日、立教した「聖
師さま」(佐原忠次郎師)
と「曹師さま」(佐原俊江
師)を讃嘆仰する式典。
参列制限のない両聖師大祭
は2019(令和元)年以
来、4年ぶり。大勢の会員
が全国から参列し、今年も

式典の様子がライブ配信さ
れた。
午前10時半に開式。宝塔
奉安殿で、献花・献灯の後、
御旗、佐原慶治会長に統一
導師が入場した。佐原会
長が塔中より、祭文を奏上
して、両聖師の恩徳に報謝
の誠を捧げ、読経を行った。
御眞諦拝受の儀では、讃
嘆文が読み上げられる中、
佐原会長が塔中より御眞諦
を奉持し、浮御台へ降壇。
御眞諦を拝し、玄題を三唱
した。

信 徒 実践スローガンに徹する 立教76年記念大祭 善隣教

「おみねや賛歌」を本唱し、
「信条五ヶ条」「善隣教信
仰標語」を唱え、救難行
者が玉串拝礼を行った。
来賓あいさつ、祝電披露
の後、保積齋主があいさつ

祈りの尊さについて語り、
「祈りのない宗教はない。
祈りは宇宙の実相を感じ
て自分のいのちを輝かし、
世に顕していくこと」と説
いた。また感謝について
、「皆さんも共に
日頃から「感謝の稽古」を
自らに課していることを語
り、「皆さんも共に
感謝の稽古を実践してくだ
さい。皆さんが実践してく
れるまで私は
訴え続けま
す」と力強く
呼び掛けた。

保積齋主は「感謝の稽古」を力強く呼び掛ける
しんだ。

妙道会教団(本部〓大阪
市天王寺区、佐原慶治会長
は5月5日、滋賀県大津市
の聖地で「両聖師大祭」を
厳修した。

大祭は1951(昭和26)
年2月4日、立教した「聖
師さま」(佐原忠次郎師)
と「曹師さま」(佐原俊江
師)を讃嘆仰する式典。
参列制限のない両聖師大祭
は2019(令和元)年以
来、4年ぶり。大勢の会員
が全国から参列し、今年も

式典の様子がライブ配信さ
れた。
午前10時半に開式。宝塔
奉安殿で、献花・献灯の後、
御旗、佐原慶治会長に統一
導師が入場した。佐原会
長が塔中より、祭文を奏上
して、両聖師の恩徳に報謝
の誠を捧げ、読経を行った。
御眞諦拝受の儀では、讃
嘆文が読み上げられる中、
佐原会長が塔中より御眞諦
を奉持し、浮御台へ降壇。
御眞諦を拝し、玄題を三唱
した。

信 徒 実践スローガンに徹する 立教76年記念大祭 善隣教

「おみねや賛歌」を本唱し、
「信条五ヶ条」「善隣教信
仰標語」を唱え、救難行
者が玉串拝礼を行った。
来賓あいさつ、祝電披露
の後、保積齋主があいさつ

祈りの尊さについて語り、
「祈りのない宗教はない。
祈りは宇宙の実相を感じ
て自分のいのちを輝かし、
世に顕していくこと」と説
いた。また感謝について
、「皆さんも共に
日頃から「感謝の稽古」を
自らに課していることを語
り、「皆さんも共に
感謝の稽古を実践してくだ
さい。皆さんが実践してく
れるまで私は
訴え続けま
す」と力強く
呼び掛けた。

保積齋主は「感謝の稽古」を力強く呼び掛ける
しんだ。

妙道会教団(本部〓大阪
市天王寺区、佐原慶治会長
は5月5日、滋賀県大津市
の聖地で「両聖師大祭」を
厳修した。

大祭は1951(昭和26)
年2月4日、立教した「聖
師さま」(佐原忠次郎師)
と「曹師さま」(佐原俊江
師)を讃嘆仰する式典。
参列制限のない両聖師大祭
は2019(令和元)年以
来、4年ぶり。大勢の会員
が全国から参列し、今年も

式典の様子がライブ配信さ
れた。
午前10時半に開式。宝塔
奉安殿で、献花・献灯の後、
御旗、佐原慶治会長に統一
導師が入場した。佐原会
長が塔中より、祭文を奏上
して、両聖師の恩徳に報謝
の誠を捧げ、読経を行った。
御眞諦拝受の儀では、讃
嘆文が読み上げられる中、
佐原会長が塔中より御眞諦
を奉持し、浮御台へ降壇。
御眞諦を拝し、玄題を三唱
した。

主催：新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会）
東京都渋谷区代々木 5-57-10 TEL:03-3468-5551